

市民調査全国大会 2010

分科会

アイデアの
全体共有

市民調査に関わる課題

1. はじめる

- **どんなきっかけが必要？**
- **調査の対象（生物等）や場所をどう選ぶ？**
- **調査に必要な技術や知識をどう手に入れる？**
- **はじめる仲間をどう集める？**
- **地権者や周辺住民・行政の理解を得るには？**

市民調査に関わる課題

2. データを活かす

- ・ 誰でもできそうなデータのまとめ方は？
- ・ 成果を誰に伝えるのが大切？
- ・ 成果を効果的に伝える方法とは？
- ・ 希少種のデータをどう取り扱う？
- ・ 成果を保全管理に役立てるには？

市民調査に関わる課題

3. 仲間を増やす

- ・ 参加してみたくなる調査にするためには？
- ・ 仲間入りを呼びかけるのに良い方法は？
- ・ 新たな調査員・後継者をどう発掘・育成？
- ・ 他にどんな協力者がほしい？
- ・ 他の団体とうまく情報交換・連携するには？

市民調査に関わる課題

4. 楽しむ

- ・ 人に伝えたい調査の楽しさ、やりがいとは？
- ・ 調査をやミツキにする秘訣は？
- ・ 調査とセットでできる楽しいことは？
- ・ 季節を楽しむには？
- ・ 世代をこえて楽しむ、子どもと楽しむには？

1. はじめる

テーマ1：はじめる

・課題 どんなキッカケが必要？

- いつでもどこでもだれとでも
- 観察会やイベントを企画する
- 知る楽しみがなければ続けられない

・課題 調査の対象（生物等）や場所をどう選ぶ？

- 愛着のある場所、思い出のある場所でなければ続けられない
- いて気持ちの良い所
- 身近な所、他人が注目する所

テーマ1：はじめる

・課題 はじめる仲間をどう集める？

→明るく楽しく元気よく

→関心が高い方

→遊びを通して

→鳥仲間（数が少ない！）

→自分がまず始める

→地元の専門家（大学の先生）をまきこむ

→いまある自然のすばらしさもみんなに知らせる。失われた時の危機感を与えて関心ある人を集める。観察会と一緒に参加してもらう

テーマ1：はじめる

・課題 調査に必要な技術や知識をどう手に入れる？

→役に立ってくれそうな友達をつくる

→セミナー（自然調査）に参加する

→知識がなくてもできる簡単な調査（調査対象・場所選びにも関係）

→調査報告書を読む

→個人、メンバーのスキルアップ

→ネットワークづくり

（市民→NACS-j、博物館、大学、野鳥の会etc

→技術・知識

（見学、インターネット、大学、専門家、書物、博物館）

テーマ1：はじめる

・課題 地権者や周辺住民・行政の理解を得るには？

→反対も賛成も集まって話し合う

→地元の人と仲良くなる

→地権者、行政・・・地域の活動に積極的に参加し、信頼関係を

→コミュニケーション能力を

→傾聴（力）

2. データを活かす

テーマ2-1：データを活かす

・課題 誰にでもできそうなデータのまとめ方は？

→みんなで花暦をつくる

→地図にみんなで書き込む

→自然観察会とセットで行う

（自然と時系列にデータを蓄積する）

→データの信頼性を担保する体制確保は市民調査において重要

→専門家と友だちになる(専門家の目を定期的に入れる)

テーマ2-1：データを活かす

・課題 成果を誰に伝えるのが大事？

- 地域の人たち(それぞれの立場で思いが違う)
- 行政(うまく巻き込む)
- メディア(効果的に使う・影響が大きいので注意)
- 子ども(→お母さん)
- 若い人にはweb、お年寄りには紙面(目的によって様々な対象がある)

テーマ2-1：データを活かす

・課題 成果を効果的に伝える方法とは？

- 生き物図鑑(小冊子・下敷き)作って配布
- 学生と連携(柔らかい頭と新しい切り口・手法)
- 配慮した上でマスメディアへ露出(→実績として蓄積する)
- HP(子供用も作る)で深化
- 3が大事！3人・3つの視点・局があれば活動しやすい
- 期限を決めて行う

テーマ2-1：データを活かす

・課題 希少種のデータをどう取り扱う？

→データの利用目的によって異なる

→地図表示は×。WEBへの掲載も注意

→地域の理解・協力が必要(学校・市町村・県・区等で監視体制を整える)

→希少種だけ守ればよいのではない、生息地全体を保全

テーマ2-2：データを活かす

・課題 成果を誰に伝えるのが大事？

- 地域の人、市役所の人、マスコミの協力
- 研究者を口説き落とす
- 調整役を作る

・課題 相手を動かす伝え方は？

- チョコレート付きのメッセージ
- 身近なものごとに引き寄せる
- グラフだけでなく、映像を活用、変化をみせる

テーマ2-2：データを活かす

・課題 希少種のデータをどう扱う？

→まずは、注意！が必要。

→種によって、扱い方を変える。

・課題 データを保全管理に役立てるには？

→ゴールを先に描く

→生物だけでなく、土木系なども巻き込む

→行政にデータ管理システムを作らせる

3. 仲間を増やす

テーマ3：仲間を増やす

・課題 他にどんな協力者が欲しい？

●市民調査の成果を行政に反映してほしい。行政から理解を得たい。

そのために…

→市民調査実施例の実績・責任

→長期的な計画と実現できる体制

→行政に示せるリーダーが必要→地域の様々な関係者とコネクションがある

→課題整理とフシセンテーションができる。

→地域の人材（ポテンシャル）の再評価

●リーダーとなる地域の人的なポテンシャルを洗い出す。

テーマ3：仲間を増やす

・課題 参加してみたくなる調査にするためには？（ツールの開発）

- 調査の言葉のイメージがよくない。→「調査」という言葉を変える
- 親子で一緒に楽しめる調査がよい。
- 参加してくれた人の名前をしっかり呼ぶ。→居場所がある感じがする。
- 役割分担を最初から与えられる。
- 道具の工夫で誰でも簡単に調べられるようにする。
- 簡単にしすぎるとなれた人は飽きてくる。
- 飲み会が楽しい。

・課題 仲間入りを呼びかけるのに良い方法は？

- 楽しい活動
- テーマ（調査）に深まる可能性がある。
- ターゲットは30代、40代の女性。→いずれ子供をつれてくる。
自然に対する関心が低そう。
- 広報ツールを工夫。ミクシイ、メーリングリスト、ホームページ
- 団塊の世代→お金と時間がある。

テーマ3：仲間を増やす

・課題 新たな調査員・後継者をどう発掘・育成する？

- 心理的な居場所（友人ができる・調査に新しい人が入ってきたときに、古い人たちが受け入れてくれる。）
- 物理的な居場所（活動の拠点が必要）
 - 居場所のある調査
 - ①社会的な位置づけ
 - ②個々の参加者すべての人の居場所
 - ③その日の活動の中での居場所
 - 誰でも参加可能な調査（いろいろなスキルの人に参加できる調査・調査項目が分かりやすい）
- 子供を活動に引き込む
 - 学校のカリキュラムを使う
 - 教員を仲間に入れる。
 - 役割を持たせる
- ツールの開発
 - 漫画を取り入れる
 - 自分たちの身近な地域のオリジナル図鑑（地域限定）をつくる

テーマ3：仲間を増やす

・課題 他にどんな協力者が欲しい？

●市民調査の成果を行政に反映してほしい。行政から理解を得たい。

そのために...

→市民調査実施例の実績・責任

→長期的な計画と実現できる体制

→行政に示せるリーダーが必要→地域の様々な関係者とコネクションがある

→課題整理とフシセンテーションができる。

→地域の人材（ポテンシャル）の再評価

●リーダーとなる地域の人的なポテンシャルを洗い出す。

・課題 他の団体とうまくいく情報交換連携をするには？

→団体同士の交流会（例えばキャラバンツアー。いろいろな団体の調査場所などを見て回る。エコツアー）

・課題 こういう活動を続けるための資金の獲得・目的設定

→地域づくりにつながる、地域に還元する仕組みが必要

4. 楽しむ

テーマ4：楽しむ

■なぜ「楽しむ」か > 調査を継続させていくため

課題：メンバーの固定化、高齢化、子ども、マンネリ・・・

●調査活動そのものを考える

参加者の動機、活動意識、存在意義、達成感

活動の雰囲気づくり

★発見の喜び＝自然の不思議さ（多様性）の維持

とくに初参加、子どもたちの「喜び」へほめる、おだてることが
参加の継続につながる

●課題をポジティブに考えよう！

モニタリングは、大いなるマンネリだからこそ意味がある！

熱烈シニア層は次のシニア層や子どもをそだてよう！

無理をしないことが秘訣 VS 無理することが達成感！

「調査」からの名称を脱皮！ 「し ら べ」